

## 空飛ぶ豚、タミフル、養豚「工場」(2)

### Flying Pigs, Tamiflu and Factory Farms Part II: Flying Pigs and the WHO



F・ウィリアム・イングドール

(翻訳：為清勝彦)

**By F. William Engdahl**

**(Japanese translation by Katsuhiko Tamekiyo)**

2009年5月4日

マイケル・クライトンのSF小説<sup>ひょうせつ</sup>を剽窃したWHO

アメリカの偉大な詩人ヨギ・ベラ (含蓄のある言葉で有名な野球選手) ならば「これはバカバカしくなる一方だ」とでも言っただろう。新たな<sup>パンデミック</sup>世界大流行の危機を監視する責任があるはずの国際機関であるWHO (世界保健機関) と米国CDC (疾病対策予防センター) は、まるでハリウッ드의B級SF映画の監督かマイケル・クライトンの小説『アンドロメダ病原体』の模倣版を書く作家のような動きをしている。人から人に感染する新型の豚インフルエンザ発生による世界的パニックの正体が実は大衆心理テロであることがますます明瞭になってきた。これによって利益を得るのは、いわゆる「抗ウイルス剤」を売っている数社の巨大医薬品企業 (特に傑出しているのがロシュ社、スミスクライングラクソ社、ノババックス社) であり、普通の人々は敗者である。

フィクション制作の中心的役割を果たしているジュネーブのWHOとアトランタのCDCからの発表は注意して研究する価値がある。4月30日にCDCは「ニューヨーク市の学校で豚を起源とするA(H1N1)型インフルエンザに感染」という物騒なタイトルの報告を出した。そこにはニューヨーク市の学校のことが詳しく記載されており、「4月28日現在、全米の豚インフル感染の症例の約半分(45件)は学校の生徒と職員であることが確認された」と伝えた。全症例とも「後にメキシコの患者で摘出されたウイルスと遺伝子が似ている」と言う。科学用語で「遺伝子が似ている」とは何を意味するのか説明されていないが、とにかく不吉な感じがするのは確かだ。

この時点で、米国で確認された豚インフル被害者は 109 人であると CDC は断言していた。その 109 人のうち 45 人がニューヨークの学校である。テレビのニュース番組は、豚インフルがコントロール不能のパニック状態で拡散しているという話題であふれていた。

翌日 4 月 29 日、WHO 事務局長マーガレット・チャン博士は、豚インフルの危険度をフェーズ 4 から 5 に引き上げ、パンデミック宣言まであと一步の段階となった。

WHO によると、フェイズ 5 とは、人から人へ拡大するウィルスが 1 つの WHO 地域事務局管轄地域で 2 カ国以上確認されたことを示す。フェイズ 6 (パンデミック) は、より広範な人々へと感染が持続的に増加している状況を示す。フェイズを引き上げる発表をした際に、チャンはパニックを誘発するような不幸な追加コメントをし、それに想定通りに CNN 他世界のマスコミが飛びついた。「つまりパンデミックでは本当に人類全体が危険に晒されます」彼女はフェイズ 6 (パンデミック) 警告を宣言していなかったにもかかわらず、ジュネーブでの会見の明らかに付け足しのコメントで、「人類全体が危険」なのは自明であるかのような言い方をしたのだ。

米国アトランタの CDC はマスコミに対し、「CDC は 5 月 3 日に米本土内全州に対する戦略的国家備蓄 (SNS) の配備を 25% 完了する予定です。この医薬品などの物資供給は、米国の各州と領土が感染発生に対処するのに役立つでしょう。この他、連邦政府とメーカーは新型 H1N1 インフルエンザのウィルスに対抗するワクチンの開発に着手しています」と発表した。(CDC のサイト <http://www.cdc.gov/h1n1flu/> を参照) パンデミック反応装置がフル稼働に向けて動き始めた。

CDC が「A(H1N1) 型・豚インフルエンザ感染が確認された症例」として厳粛に報告した 45 人のニューヨークの生徒は、その 95% が「熱に加えて咳またはのどの痛み」を含む症状があることが保健当局に報告されており、「CDC の " インフルエンザらしき病気 (ILI) " の定義に合致している」。

まあ良しとしよう。新型アンドロメダ病原菌と戦うのだから用心に越したことはない。しかし、咳？ のどの痛み？ 発熱？ なんだか普通の症状に過ぎないような気がするが、あまりにも漠然としてないか？ だが、CDC にとっては明らかに異常事態だ。45 人の子供たちは即座に「急増する確認済み症例の数字に追加され、緊急事態に火を注ぎ、米国大統領は声明を出し、脆弱なメキシコ経済は一夜にして旅行者が消えたことで壊滅し、黒死病 (14 世紀に発生したペストで欧州では人口の 3 分の 1 から 3 分の 2 が失われた) あるいは 1918 年のスペイン風邪の再来に世界は恐怖に陥った。

CDC は「患者の症状は季節性のインフルエンザに似ている」と手短かに注釈を付け足した。3 ページにわたって詳述されている CDC のニューヨーク報告を時間をかけて読むと、最後の辺りに「4 月 27 日現在、37 人 (84%) の患者については症状は安定し改善しており、3 人 (7%) は症状が悪化 (その内 2 人は後に改善) し、4 人 (9%) は全快した。1 人だけが失神して入院し、一晩の経過観察を経て退院した」と記載されている。そして「この学校で起きた豚インフルエンザ発生は、

これまでのところ米国で最大規模である」とも加えている。

米国で「確認」された 109 の症例(テキサス州で死亡した 1 人のメキシコ人少年を含む)に加え、4 月 29 日現在で「メキシコでの 7 人死亡を含む、合計 57 件が報告されている。国別ではメキシコ 26 件、カナダ 13 件、イギリス 5 件、スペイン 4 件、ドイツ 3 件、ニュージーランド 3 件、イスラエル 2 件、オーストリア 1 件となっている」と CDC は伝えている。これはもしかして「空が落ちてくる」と騒ぎ立てる被害妄想の症例だろうか？

### 正体をばらしてくれた「名称変更」

黒死病以来の最悪のペストの犠牲者とされたニューヨークの子供たちがほんの数日で顕著な回復を見せている中で、この世界的事件の最中に WHO は名称を変更すると発表した。WHO、CDC、米国メリーランド州の国立衛生研究所は 5 月 1 日までに揃って、「豚インフルエンザ」という名前は適切でないと言い出した。コロンビア大学の計算生物学教授のラウル・ラバダン (Raul Rabadan) 博士によれば、8 つの遺伝子片の内、6 つは純粋な豚インフルエンザであり、残りの 2 つはもともと鳥と人間のものだったのが十年ほど豚の中に住んでいたものという事実があるにもかかわらずである。

(参照) Seth Borenstein, Swine flu name change? Flu genes spell pig, AP, 2009 年 5 月 1 日,  
<http://www.physorg.com/news160371024.html>

新しい名前は A(H1N1) 型インフルエンザになった。もっともらしい名前だ。

この名称変更は、豚肉の売上が明らかに妨害されているので、豚インフルエンザというレッテルを外してほしいという米国の豚肉業界からの強い要望を受けたものだ。CDC と WHO に対して名称変更の要請をした中には、米国および世界最大の豚肉製造会社であるバージニア州のスミスフィールドフーズ社が入っていたことは間違いないだろう。彼らの望みは叶った。しかし、名前を変えようが変えまいが、スミスフィールドフーズ他工業化された畜産、専門用語では CAFO(集中化給餌操業)方式による養豚は、厳しい検査を受けるべきだ。

前回述べた通り、メキシコの豚インフルによる死者や病気の第一号はベラクルス州ペロテ町のラグロリアで記録された。公式な発表の何週間も前から地元の住民たちはスミスフィールドフーズの巨大な CAFO の危険性に抗議していた。子供も成人も、養豚場の膨大な廃棄場の付近で症状が頻発していたことが報じられている。スミスフィールドフーズは世界最大の工業的豚肉製造者である。と同時に安全衛生面で極めて悪質な過去を持っている。

### 豚の糞便、その他もろもろ

糞便とは、クソのことであるが、人間や動物の消化によって出る排泄物である。排泄物の生産

という意味では豚は世界チャンピオンだ。普通の豚は、大人の人間の約3倍の重量の糞便を出す。農業団体の GRAIN は、

北米において大規模なファクトリーファームが増加したことで、新種の強毒性のインフルエンザ菌が発生・拡散するための最適な培養環境が作られた。

GRAIN 「殺人食糧システム：豚インフルエンザは食肉産業の最新ベストだ」 2009年4月  
<http://www.grain.org/articles/?id=48>

と報告している。問題の核心は豚の糞便廃棄物であり、CDCはこのことを名称変更で都合よくごまかそうとしている。

GRAINの研究が指摘しているように、家畜へのエサを集中的に与える方式では大量の数の家畜が密着して育つため、毒物や感染力の強い病原菌にとって理想的な培養環境となる。2003年に『サイエンス』誌は、豚インフルエンザは「ファクトリーファームの規模拡大や生産過程でのワクチン投与普及によって、新たな進化を急速に遂げている」（引用元）Bernice Wuethrich, Chasing the Fickle Swine Flu, Science, Vol. 299, 2003 と警告した。巨大なCAFOファクトリーファームが何万という鶏に有毒の廃棄物を大量に食べさせていた鳥インフルエンザと同じ事情だ。

世界最大の豚<sup>とぎつ</sup>屠殺者でありCAFOのオーナーであるスミスフィールドフーズは、水質汚染防止法など安全衛生に関する法規違反の輝かしい前歴を持っている。米国内で最大の養豚CAFOはノースカロライナ州のターヒールにある。現地からの報告では、スミスフィールドフーズのCAFOが近隣に排出する糞便や混合物があまりに大量なため、「ノースカロライナ州ピッグウェイスト（豚の糞）」に今すぐ地名を変えても支障ない状態である。

豚の廃棄物問題を分析しているジェフ・ティーチェ (Jeff Tietz) が計算したところによると、

最良ケースの見積りをして、スミスフィールド社は毎年2千6百万トンの廃棄物を出している。ヤンキースタジアムが満杯になる量だ。同社の屠殺工場の周りに沢山ある小さな養豚設備に割り振ったとしても、とても収容可能な量ではない。

さらに、

驚異的なのは糞便だ。もしも大都市の自治体と同じレベルで排泄物を処理するなら（そのレベルにはまったく達していないが）、スミスフィールド社は損失を出すだろう。同社の下請けの多くは、傾斜のついた家畜小屋から大量の排泄物が流れ出すに任せており、何も処理されず青空の下に放置され、自然が分解すると、重力に従って地下水や河川に染み込んでいく。スミスフィールド社は自然環境に責任ある企業文化を誇っているが、これみよがしの汚染こそがスミスフィールドのビジネスモデルの根幹だ。

CAFOによる汚染を糾弾する人々が強調しているのは、単なる通常の豚の排泄物問題ではなく、「効率性」を最大化するためにスミスフィールドなどのCAFO経営者が使用している驚くべき量の抗生物質と有毒化学物質の混入した排泄物のことなのである。

ティーチェは指摘する。

糞便の量が多いことは確かに問題だ。しかし、糞便の毒性が極めて高いことも問題である。スミスフィールドの豚の排泄物は、ほとんど豚の糞便とは言えない。汚染物質の連鎖によって、有機的な肥こえというよりは、放射性廃棄物に近いものがある。スミスフィールドの効率性の追求の結果が高い毒性である。同社は毎年 60 億ポンドの豚肉パックを生産している。これは二十年前には想像もできなかった高い生産性である。これを実現するための唯一の方法が前例のない驚愕きょうがくの集中化養豚である。

(引用元)Jeff Tietz「豚肉の汚い秘密: 米国最大の豚肉メーカーは米国最悪の汚染者でもあった」Rolling Stone 2006 年 12 月 14 日



スミスフィールドフーズの垂直統合された豚肉施設の集中度合いは、伝統的な養豚とはまったく別世界である。今では世界中に展開されている施設で何百何千という豚が壁から壁まで檻おりが並んだ倉庫のような小屋で生活している。雌豚は人口受精され、身動きのできないほど狭い囲いの中でエサを与えられ子豚を出産する。

通常は、完全に成長した 250 ポンドの雄豚 40 匹が小さなアパート一室分の檻に収容されている。お互いに死ぬほど踏みつけ合う。日光も藁わらも新鮮な空気も土もない。床は、小屋の下にあるピットに排泄物が流れ落ちるようにスレート敷きにしてあるが、ピットの中では排泄物以外のものもいろいろ混じり合っている。母豚にうっかり踏み付けられた子豚、古い電池、殺虫剤のビン、抗生物質の注射器、死産の豚、ピットへの 30cm ほどの幅のパイプを通るものならば何でもごちゃ混ぜだ。ピットに十分に汚水が溜まるまでパイプは閉めてあり、排出圧力がかかるだけ溜まるとパイプが開かれ、何もかも大きな貯蔵池に噴出する。

とティーチェは述べる。更に CAFO の有毒な環境について続ける。

豚は感染しやすい状態になっている。詰め込まれた環境で、一匹の豚に細菌、寄生虫、カビが

発生すれば即座に全部の豚に襲いかかるだろう。そのため、工場の豚は、極めて多種多様なワクチンと抗生物質を注入され、殺虫剤を噴霧されている。オキシテトラサイクリン、ドラクシン、セフトロフル、チアムリンなどの合成物質なくして病気に生き残ることはできない。ファクトリーファームの豚は、屠殺されるまで死にかけた状態のままである。もう少しで屠殺を迎える豚の病気が悪化した場合、従業員は必要な限りの薬を打ち込み自力で屠殺場まで歩いて行かせることもある。自力歩行可能であれば、法律上、殺して肉として売って良いからである。

スミスフィールドフーズの豚 CAFO の廃棄物問題の壮大な規模に気付いたのはティーチェだけではない。米国環境保護庁 (EPA) は、ターヒールなど全米で CAFO からの豚廃棄物により地域の水系を損なっとして何度もスミスフィールドフーズに罰金を課している。スミスフィールドは、地元のバージニア州でも 1997 年に豚の屠殺と食肉加工の工程で発生した廃棄物の処理を巡り、水質汚染防止法に 6,900 件の違反があったことで 1,260 万ドルの罰金を課せられている。これは同法の下、EPA によって課せられた罰金として史上 3 番目の規模であった。(引用元) EPA「米国はバージニア州の河川を汚染したスミスフィールドフーズを訴える」1996 年 12 月 16 日の記者発表 この罰金によってスミスフィールドフーズの廃棄物処理方法が改善したことを示す説得力ある証拠はほとんどない。

スミスフィールドフーズは養豚 CAFO を環境規制が緩やかな国々に拡大していった。ルーマニア、ポーランド、そしてもちろん、メキシコの田舎だ。数年前、ルーマニアのスミスフィールドの養豚 CAFO はルーマニア政府と自治体の衛生当局から大きな非難の的となっていた。養豚場で何日も腐ったまま放置された何百という豚の死体から出る悪臭に住民が苦情を申し立てても、スミスフィールドは現地の当局の立ち入りを拒否した。「定期的な検査を行おうとしてもアメリカ企業の養豚場に入ることはできなかった」とルーマニアのティムショハラ衛生獣医局のチャバ・ダロチ (Csaba Daroczi) 副局長は語る。「何度試みても、守衛に押し戻された。スミスフィールドは、検査の三日前に事前警告を義務づける協定にサインするよう我々に要求した」後になって、スミスフィールドはルーマニアの CAFO で昔ながらの豚コレラが大規模に発生していたことを隠そうとしていたことが判明した。

(引用元) Mirel Bran (翻訳 Leslie Thatcher) 「豚ペスト：米国企業の態度を批判するルーマニア」  
ルモンド 2007 年 8 月 15 日 先述の GRAIN に所載

## 薬品カルテルが参加

スミスフィールドフーズのベラクルスの養豚 CAFO の有害廃棄物で病原菌の発生したことについて、あるいは世界中で類似の養豚 CAFO で致死的な毒物や多様な病原菌が生成されていることについて、客観的な全面調査を命令するのではなく、CDC は (次第に WHO も)、過去に危険性が指摘され、死に至ることもある、タミフルのようなインフルエンザ薬を大量に配布させるためのムード作りに関心を持ち始めたようである。

4月14日、豚インフル（CDCの好みではA型H1N1インフルエンザと言うべきだが）がメキシコで発生しパニックになる約二週間前に、米国の医薬品会社ノババックスは臨床前検査の結果として「1918年のスペイン風邪のウィルス株を元にしたH1N1ウィルスに似た粒子の試験ワクチンは、スペイン風邪と発病しやすいH5N1鳥インフルエンザの双方を防ぐ効果があった」ことが判明したと発表している。ノババックスの遺伝子操作したワクチンは、「ネズミとフェレットをスペイン風邪とH5N1鳥インフルエンザから守ることができた」そして便利なことに「発病しやすいH1N1型とH5N1型のインフルエンザに対する防御も提供する」と主張した。

(引用元) Tricia J. Richardson, NOVAVAX Announces Publication of a Preclinical Study Demonstrating that a Virus-like Particle Vaccine Provided Protection Against Highly Pathogenic H1N1 and H5N1 Influenza Strains, 2009年4月14日 Rockville, Md. 記者発表

4月24日、WHOはマスコミ発表で「今回発生した豚インフルエンザ（A/H1N1）ウィルスの特徴は、今まで豚にも人間にも検出されることがない。これまで分かった範囲では、このウィルスはオセルタミビルに反応する」と述べた。オセルタミビルとは、タミフルの正式名であり、ドナルド・ラムズフェルドのギリアドサイエンス社が開発し、ロシュ社が販売ライセンスを持つ薬である。米国食品医薬品局（FDA）は4月27日に都合の良い緊急許可を発令し、保健当局らは1歳以下の乳幼児にもタミフルを投与してよいことになった。FDAは更に追加して、「緊急事態宣言の決定を受けて、未認可・未合格の医療品の使用、または、認可済・合格済の医薬品を未認可・未合格の使用方法で使用することを許可する」ことを決定した。

(引用元) FDA ニュース「豚インフルエンザの人間感染を受け、FDAはインフルエンザ薬の緊急使用と診断検査を許可」2009年4月27日

これは米国政府がパニックに陥った民衆に実験段階の薬（ノババックスのワクチン、大量に在庫のあるタミフル、巨大企業グラクソスミスクライン社のリレンザ/ザナミビルなどのインフルエンザ薬）をばらまいたか、ばらまこうとしていることを意味する。

今日まで世界中で豚インフルエンザH1N1の変種として「確認」された症例の規模、インフルエンザA(H1N1)型または豚インフルエンザの感染症例985件という規模を前提にすれば、人々に致死的な副作用や深刻な合併症、往々にしてインフルエンザのような症状をひきおこす薬を投与するだけの根拠はほとんどない。タミフルに至っては当該インフルエンザを「防ぎ、治療する」と言われてもいない。過去数週間のドラマ全体はますますクライトンの『アンドロメダ病原体』の出来の悪いリメイク版に思えてくる。

この奇妙なドラマに解説を加えると、2004年11月、当時世界パニックとなっていた鳥インフルエンザの初期で、ラムズフェルドらによるタミフルが驚異の薬として世に有名になり始めたころ、WHOは信じられないような空想シナリオを発表した。いつもは世界の衛生の専門家たちに面白くもない科学的な連絡ばかり発表している国連機関であるが、この2004年の報告は信じられないような「予知能力」で今日の豚インフルエンザ・パニックを見通していた。「いつか将来・・・」というタイトルのついた空想部分にWHOは4年前、こう書いている。

片田舎の二つの村で、いつもとは違う深刻な呼吸器疾患が発生したという噂が、ある WHO 加盟国の厚生大臣に届いた。調査隊が派遣され、一ヶ月前に病気が発生したことが判明した。調査隊は、先月以降、少なくとも 50 件の症例があることを突き止めた。あらゆる年齢層が被害を受けていた。現在 20 名の患者が州の病院に入っている。既に 5 名が肺炎と急性の呼吸障害で死亡していた。周辺地域での調査・監視が進められ、州の全域で新たな症例が発見された。数名の患者から回収された呼吸器の検体が国立研究所で検査され、A 型インフルエンザ・ウィルスの陽性反応が得られた。しかし、亜型まで特定できなかったため、分離株は WHO インフルエンザ情報センターに送られ、更なる特徴判定をすることになった。その結果、過去に人間から分離されたことのない亜型である A(H6N1) 型の特徴が判明した。遺伝子配列の解明によって更に詳細が判明し、ウィルスの遺伝子の大半は鳥インフルエンザ・ウィルスに由来し、残りの部分が人間のウィルス株に由来するものであることが示された。

(引用元)WHO「インフルエンザ世界大流行対策チェックリスト」2004 年 11 月  
<http://www.who.int/csr/resources/publications/influenza/FluCheck6web.pdf>

A(H6N1) 型を A(H1N1) 型に入れ替えれば、まったく現在の状態である。

この 2004 年の WHO の想定シナリオは、まるで 4 月以降、米国、メキシコ、その他の地域で展開されてきたことのハンドブックのように読める。実際には存在しない恐怖に立ち向かうために危険な薬を大量に摂取させることを狙った、巨大な心理戦争ゲームに世界は翻弄されているのではないかという深刻な疑問を感じさせる。

報道されていたメキシコの症例は現時点では明らかに沈静化され、ごく最近、公式に警告された 1918 年のスペイン風邪の再来もしくはそれ以上の悪い事態も起きる兆しが無い。今更ではあるが、CAFO 式養豚場やファクトリーファームでの集中化された畜産の有毒な環境に対し、世界規模の全面的な衛生調査を実施すべきである。そして、何が巨大な健康不安をもたらしたのか、本当の原因を政府や国際機関が隠すのを止めさせるべきである。

---

元記事 Flying Pigs, Tamiflu and Factory Farms Part II : Flying Pigs and the WHO

by F. William Engdahl (URL <http://www.engdahl.oilgeopolitics.net/>)

Global Research, May 4, 2009

<http://www.globalresearch.ca/index.php?context=va&aid=13480>

© F. William Engdahl, Global Research, 2009

この記事は、著者 F・ウィリアム・イングドール氏のご好意により日本語訳と公開の許可を頂いたものです。  
This is the translation of the article by the author F.William Engdahl and presented to the public owing to his kindness.